

指定校番号	30043	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷中学校	校長	大畑 文信	生徒指導主事	大西康晃
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『生徒会を中心としたボランティア活動の充実』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性」	1	「自らへの自信」	3

取組のねらい『キーワード：自主的にやりきれるボランティア活動』

- ・生徒会執行部を中心として、日々校内で行える短時間ボランティア活動を実行する。
- ・グループを作り曜日ごと、または日にちを指定して活動する。
- ・ボランティア活動を通して、他者から評価され自己肯定感を育てる。
- ・ボランティア活動をやりきることで、充実感・達成感を得る。

取組の具体的内容『キーワード：毎日自主的に、3年生が責任感を持って』

- ・朝掃除ボランティア
- ・挨拶ボランティア
- ・旗揚げボランティア
- ・フラワーボランティア
- ・環境ボランティア
- ・献血ボランティア
- ・募金ボランティア

取組の課題・創意工夫『キーワード：日々短時間で行える』

- ・各ボランティア活動に生徒会執行部で担当者を割り当てる。
- ・各学期はじめに、全校生徒に各ボランティア活動募集をする。
- ・募集後、各ボランティアのグループを縦割り班で構成する。
- ・各活動時には、3年生がリーダーとして出欠や振り返り等を行う。
- ・献血ボランティアについては、日本赤十字社と連携し5月、12月の年2回実施。町内スーパー駐車場にて1日行う。
- ・献血ボランティアは、報道機関に取材依頼し、新聞・CATV等で活動報道をしていただく。
- ・学期ごとにボランティア活動を選ぶことができるので、様々な経験ができる。
- ・学校外でのボランティア活動の案内も行い、活動・参加の視野を広げる。
- ・年々ボランティア参加生徒は増えているが、100%達成には至っていない。

取組の成果（効果）『キーワード：参加者が認められ評価されることで次につながる』

- ・日々短時間で行うことができるので、継続して活動できる。
- ・校内での活動が主になるので、教員側も肯定的な声かけができ、HR等で他の生徒にも伝えることもでき評価の場面が増える。
- ・献血ボランティアは、報道機関等で取り上げられることにより、校外の方々に活動が知られ評価されることが増える。
- ・活動内容、風景の校内掲示等も行い、評価の場面を増やす。
- ・以上の様な評価場面が増えることで、生徒の次のやる気につながり、徐々に参加者も増えている。
- ・夏の豪雨災害の町内復旧作業時に、町内のいたる所で中学生がボランティア活動をする姿が見られた。
- ・自宅が全壊や半壊、床上浸水等で被災した生徒自身も、自宅以外のボランティア活動に自主的に協力していた。
- ・ボランティア活動をすることが当たり前になっている状況の生徒が多数いるように感じる。

今後の展開『キーワード：他者から褒められることで自己肯定感を育てる』

- ・ボランティア活動を通して、認められる喜びを味わう機会が増え、自己肯定感が育てられる。
- ・自己肯定感が育つことにより、精神状態も落ち着き、人間関係も安定しトラブルも減少してきている。また、対象生徒も全体に広がることなく、特定の生徒に限られるようになる。
- ・この取組を継続する事が、積極的生徒指導につながる。
- ・活動を評価すること、学校便り等で紹介する事等も含めて、様々な情報発信を継続する。

他教科との関わり『キーワード：課題解決能力の育成につなげる』

- ・自己肯定感が育つことで前向きに授業に取り組むことになり、各授業で課題解決に向けてよりよい方法を選択し、自ら進んで取り組む力が育つ。また、未知なるものにチャレンジし、自分の持っている考えを的確に伝えることができ、相手の考えも肯定的に受け止め、自分の考えに生かすことができるようになる。学力の向上・進路実現につながる。